

別紙4 (調査研究費)

調査報告書

平成29年8月21日

木津川市議会議長 高味孝之 様

会派名 公明党
 会派代表者 島野 均
 議員名

柴田 正司

調査期日	平成29年8月2日(水)～平成29年8月4日(金)
調査先	<p>1 東京武蔵野市 8月2日(水) 18時30分～15時00分</p> <p>2 茨城県常総市 8月3日(木) 10時00分～11時20分 13時20分～15時20分</p> <p>3 神奈川県大和市 8月4日(金) 10時00分～12時00分</p>
参加者氏名	<p>柴田 正司</p> <p>(京田市 榎井立志、河田美穂、八幡市 岡田志子、 清水草子、太田克彦)</p>

会派視察研修報告書

東京都 武蔵野市

8月2日 13時から

調査項目 「認定ヘルパー制度」について

人口14万人、面積10.98㎢。首都圏で住みたい街ランキング上位、活力ある都市ランキング1位の都市。

訪問型サービスにおいて「武蔵野市認定ヘルパー制度」を創設。訪問介護の基準を緩和して、専門の介護資格のない人にも担い手を広げる取り組みについて（既存の介護事業者以外のNPO法人や住民ボランティア、企業等が事業の担い手となり、通所サービスや移動支援、見守り支援などを行う）

高齢化の進捗に伴い2000年から様々な高齢者施策に取り組まれている。今回の調査項目の認定ヘルパー制度はシルバー人材センターなどに委託され、仕事を通して地域のさせあいに参加したい、将来、介護の資格を取りたいけれど、その前にヘルパーの仕事を経験したい、と思っている市民を対象にヘルパーなどの資格がなくても一定の研修を受けることにより、高齢者の日常生活をサポートすることができるのが「認定ヘルパー制度」。訪問ヘルパーとして、身体的介護はできないが主に家事などを行う事業。要支援が介護保険からはずれ地域支援事業に変更となることにより、制度の狭間で困っている人を応援する。この制度のすごいところは、有償ボランティアではなく、仕事として位置づけている事。登録者は年々増えている。要支援の人などに家事援助をするこの制度は武蔵野市どくじの取り組み。昨年総合事業をスタートしたのを機に整えた。以前なら介護職が訪問介護で提供していたサービスだ。ある市民が利用した家事援助のサービス料は1回あたり2千円で、利用料の本人負担は所得によって1割～2割。ヘルパーが受け取る金額は、1100円程度。部屋の隅々まできれいになったと利用者からは、好評。

これまでは介護資格のない人が出向くことは「ない」。しかし総合事業に移行したことで自治体独自の資格を持つ人が、訪問して家事や住民ボランティアが買い物を買ったりできる。きっちりとした講習を行うことで、未経験の主婦や定年退職した人も担い手になれるし、ボランティアでなく「仕事」として家事援助を担える。実施主体となる福祉公社などには、仕事に見合う賃金を出してもらおう。

また、認知症ヘルパー制度事業も実施されており、市の単費で、デイサービスに中々行かず大変な認知症の人や、その家族のために訪問して話し相手になったり、散歩したり当事者の状況に合わせて対応するというもの。月に4回利用でき1時間500円。

茨城県 常総市

8月3日 10時から 午後は現地視察

調査項目 平成27年9月10日に発生した関東・東北豪雨災害について
常総ホットサタデー教室について

常総市は、茨城県の南西部、都心から55km圏内に位置しており、東は、つくば市・つくばみらい市、西は坂東市、南は守谷市、北は八千代町・下妻市にそれぞれ面している。本市の中央には一級河川の鬼怒川が流れており、東部は広大な水田地帯となっている。

面積 123,64km² 所帯数21,08戸 人口 60,810人

29年度予算規模は、一般会計220億6000万円。特別会計等合わせて、411億9446万8千円。

2年前の水害を通して、議会としてどう対応し、これからどう対応するのか。また、水害からの復興ビジョンを策定されその内容について、説明を聞き質疑応答を行った。

平成27年9月関東・東北豪雨により、鬼怒川で1か所の堤防決壊、7か所の溢水・越水が生じたほか、堤防の漏水や護岸崩壊による被害が多数発生した。また、八間堀川においても、3か所で堤防決壊や、護岸崩壊による被害が発生し、市域の三分の一にあたる42平方キロメートルが浸水し、多くの家屋や事業所が被害を受けた。

人的被害	死亡2人	重症3人	中軽症41人
住宅被害	全壊53件	半壊3476件	床上浸水148件
	床下浸水3072件	停電約1万、1,300軒	断水1万、1,800軒など。

議会の関わりについて、常総市議会災害対策本部を設置。議長は市の対策本部に参加し、情報共有に努めた。議員は災害現場で対応し予防等の把握、議会事務局との連絡調整、情報共有、事務局は、議員の安否確認、災害対策本部と議員との連絡調整、他市議会との連絡調整等。

対応は、27年11月臨時議会において、水害検証特別委員会の設置で今後も起こり得る大規模水害を、最小限にできるように市長に提言を行う。また、水害復興特別委員会も設置。木津川市も最近はゲリラ豪雨等で、被害が起きている。大変勉強になった。

その後、教育部から、土曜事業の取り組みについて説明頂き質疑した。

常総ほっとサタデー教室は新4・5・6年生対象に学習のつまずきを補い、宿題や復習を支援する補修教室。基本的な学習内容の理解を手助けし、学習習慣を身に付けることを支える機会とするもの。土曜日も含め週4日の開催、元教員で対応。多くの子供が利用している。

午後から水害により決壊した鬼怒川上流の現地視察。3か所の復興状況を見せていただき、水道局も見学させていただき、地下にあった電気系統を二階に移動され、当時の水害の状況もお話しいただいた。テレビでヘーベルハウスの2階から救助を待っている様子が映し出された家も教えて頂いた。決壊したかわの側だったが、もう立派な堤防が完成していた。

神奈川県 大和市

8月4日 10時から

調査項目 介護ロボット導入支援事業について

大和市は、都心から40km圏内の神奈川県ほぼ中央に位置し、横浜、相模原、藤沢、海老名、座間、綾瀬、東京都町田市に隣接する人口約23万3千人の自治体。面積27,09km²。市内にある8つの駅から、横浜へ20分、とうきょうへ1時間弱で行くことができる。

健康都市を目指し、60歳代を高齢者と言わない都市で、様々な、健康長寿に関する事業を展開され国際大会にも招待されている。

現在様々なロボット施策の推進に取り組んでおられ、先駆的な取り組みとして介護ロボットを導入して介護職員の職場環境を改善し、人材確保につなげるための事業者に対し、費用の一部(最大90%)を補助し、介護ロボットを導入する事業者を支援している。対象は、市内に所在する介護サービス事業者。対象となる機器は、日常生活支援における、移乗介護、移動支援、排せつ支援、見守り、入浴支援いずれかの場面でしようされ、介護従事者の負担軽減効果のある介護ロボットであることや、経産省が行う「ロボット介護機器開発・導入促進事業」において採択されたものなど。

その後、社会福祉法人「みなみ風」にて現地視察。実際に使用している介護ロボットを見せて頂いた。一つは、アイロボットで、ロボットを中心に囲みロボットの指示で、軽い体操を行う。皆、楽しそうに体を動かしていた。また、ベッドのロボットは、縦に半分が車いすになるもので、介護従事者が起こさなくても、リモコン操作でゆっくり起き上げられる。ベッドの半分ということで大きいのでトイレは入れないので、常時おむつ使用の方の利用とのことだった。

人口減少などで介護の人材不足が懸念されている中、これからもっともっと発展していく事業だと思った。







別紙 4 (調査研究費)

調 査 報 告 書

平成30年2月5日

木津川市議会議長 高味孝之 様

会 派 名 公明党
会派代表者 幹事 島野 均
議 員 名 島野 均

調 査 期 日	平成30年1月24日(水)～平成30年1月25日(木)
調 査 先	調査先 福岡県大宰府市 1月24日(水) 13時30分～15時30分 調査項目 景観と歴史のまちづくりについて
	調査先 佐賀県武雄市 1月25日(木) 9時00分～11時00分 調査項目 こども図書館の概要について
	調査先 佐賀県武雄市 1月25日(木) 13時30分～14時30分 調査項目 スマイル学習について
参加者氏名	島野 均、柴田 はすみ

会派視察研修報告書

実施日：1月24日(水)～25日(木)

福岡県 大宰府市

1月24日(水) 午後1時30分から

調査項目 「大宰府市の景観と歴史のまちづくり」について

大宰府市は、福岡県中西部の筑紫地域に位置する市であり、九州地区の統治組織「大宰府」が置かれたことにより栄えた。大宰府天満宮などの史跡が多くあり、人口約7万1千人、面積29.58km²で、毎年700万余りもの観光客が訪れる観光都市でもある。

景観と歴史のまちづくりを進めるため

- ①大宰府市民遺産活用推進計画
- ②大宰府市景観まちづくり計画
- ③大宰府歴史的風致維持向上計画

以上の計画を連動させた、持続的なまちづくりを展開されている。

景観・市民遺産会・・・市民・事業者及び行政の協働組織

3つの計画の位置づけ

- ①大宰府市民遺産活用推進計画

文化遺産は地域の歴史や地形の文脈を表すもの

- ②大宰府市景観まちづくり計画

市全域を良好な景観形成を図っていく「景観計画区域」に定め、さらにより積極的に景観形成を図る地区として「景観育成地区」を定めている。

- ③大宰府歴史的風致維持向上計画

歴史的風致を維持、向上していくための計画

これらの計画の中で、「まちづくり事業」と位置づけ、市民・事業者・行政と話し合いをする中で、各計画の具体的な連動の可能性を見出すもの。

*景観形成において、建造物に指定することで、修繕事業を計画し、文化遺産の保全・育成にもなる。具体的な修繕事例の視察を行い、まちづくりに貢献されていた。当市としても参考としたい。

佐賀県 武雄市

1月25日(木) 午前9時から～午前11時00分 午後は現地視察

①調査項目 こども図書館の概要について

武雄市は、人口約4万9千人、面積196km²で、佐賀県の西部、佐賀市と長崎県佐世保市の間に位置し、市の中心には開湯以来1300年が経つ武雄温泉があり、この温泉には日本銀行や東京駅の設計を行った辰野金吾設計の楼門があり、国の重要文化財に指定されている。

こども図書館の概要

○開館日 平成29年10月1日

○営業時間 午前9時から午後9時(年中無休)

○蔵書冊数 約20,000冊 CD・DVD約1,000枚

○フードコート 「九州パンケーキカフェ 武雄市こども図書館店」

「蔦屋書店 武雄市図書館店」(スターバックス)

*館内のスターバックスで購入された飲み物は、すべての閲覧スペースに持ち込むことができる。コーヒーを飲みながら本を読むことができる。またスターバックスで購入された食事は、1階テラス席等で食べることができる。

①子育て応援施設・・・こどもと家族の生活を豊かにする図書館

②世代を超えて交流・学習できる施設・・・武雄市の自然、遊び、出会う、絵本を通した「学びの場」である。

佐賀県 武雄市

1月25日(木) 午後1時30分から～午後2時30分

②調査項目 スマイル学習(武雄式反転授業)について
(学力向上、生きる力を育成)

タブレットパソコンを家庭に持ち帰り、動画を活用した予習を行い、翌日の授業に臨むもの。事前に予習することで、話し合いや学びあいを中心とした協働学習を行うことができる。

*図書館運営、スマイル学習については、指定管理と反転授業であるので、当市でも十分参考にできる内容であると思われる。





